

## 論 説



# 田口玄一の考え方の構造化 (1)

## —品質工学は学問かという矢野宏の問いに対する検討—

### *Structuring of Taguchi Genichi's Philosophy and Theory (1)*

### *— Respond to the Question from Hiroshi Yano Whether Quality Engineering is Academic Discipline —*

吉澤 正孝\*

Masataka Yoshizawa

#### 1. はじめに

学会設立25周年の記念として、今後の学会としての方向として、「理想を目指して 新たな品質工学の道」を設定した。それを一歩進めるためにビジョン30を設定し、その方向で長期計画を策定した。学会の中心的課題は、会員の研究成果を論文として結実させ、その結果をより体系化し、より完成したものに仕上げていく必要がある。そのためには、学会が目指す品質工学という「学問」がどのようなもので、どこまで完成しているのかを明らかにしておくことが、今後の学会の活動として重要である。

品質工学は、それぞれの専門技術や研究開発を支援し、生産性を上げることを活動の狙いとしている。この活動を促進するために上記長期計画を受けて、検討会を結成し田口の考えを振り返り、それを構造化し、品質工学を研究するための基本を明確化することを計画した。その理由は、下記のとおりである。

- (1) 1993年に品質工学フォーラムを設立した当時に田口博士の薫陶をうけた会員も時代を経るたびに減少し、薫陶から得られた暗黙知などが失われる可能性があり、それを残しておく課題がある。
- (2) 品質工学を学ぶ新しい会員が増加し、それらの会員に対して、継続的に開発されてきた品質工学の基本となる考えを整理しておく必要がある。

(3) 田口玄一が創始した品質工学は、時代を経るたびに考えや手法を進化させてきた。必ずしもそれらが系統的に整理できているわけでない。それらの考えと手法を再整理し、初学者に理解しやすくする課題がある。

(4) 日本の学術界の権威である日本学術会議の協力学術研究団体として品質工学会はリストされ、学術を追究する団体として認められている<sup>1)</sup>。しかし、それは品質工学が学として確立したものであることを担保するものではない。また、文部科学省の助成金対象として1000程度の学問分野リストに、品質工学の名称は見当たらない。まだ「学問」として政府の助成対象として認知されているわけでない。

(5) このような背景があり、矢野宏から「品質工学は学問であるのか」、という問いが寄せられたが、われわれは、それにまともに答えられていない。

(6) 田口は、新しい学問を創始するというイノベーションを起こしてきただけに、品質工学には従来の学問にない異質な点が多々あり、理解しにくい点があるのは事実だろう。イノベーションの提唱者であるシュムペーターは、イノベーションの本質を「新しい欲望がまず消費者の間に自発的に現われ、その圧力によって生産機構の方向が変えられるというふうにおこなわれるのではなく…むしろ新しい欲望が生産の側から消費者に教え込まれ、したがってイニシアティブは生産の側にあるというふうにおこなわれるのがつねである」<sup>2)</sup>とした。創造者側が使用者側

\* クオリティ・ディープ・スマーツ(責)